



火災予防、

してますか？

問 市役所危機管理課
☎ 055 (948) 1480



火災が発生しやすい季節、「予防する」意識を

「火災が発生しやすい季節です。火の元には十分ご注意ください。」夜、警鐘とともに聞こえる火災予防のアナウンス。皆さんはこれを聞いたとき、「火災に気をつけよう」と思いますか。それとも、「自分には関係ない」と気にも留めないでしょうか。

平成26年に市内で発生した火災は17件、そのうち2件が住宅火災でした。あまり多くない、と感じるかもしれません

んが、全国では住宅火災だけで約13,000件も発生しています。これは、1日に約35件、日本のどこかで住宅火災が起きている、という計算です。決して少ない数字ではありません。

特に火災が発生しやすくなるのが、冬から春にかけての時期です。そこで、毎年11月と3月に、全国火災予防運動が実施されています。

平成27年度 全国統一防火標語

**無防備な
心に火災が
かくれんぼ**



全国統一防火標語は、総務省消防庁と（一社）日本損害保険協会が共催で募集を行っています。平成27年度は全国から28,642点の作品が寄せられ、その中からこの標語が選ばれました。皆さんは火災に対して、無防備な気持ちになっていませんか。



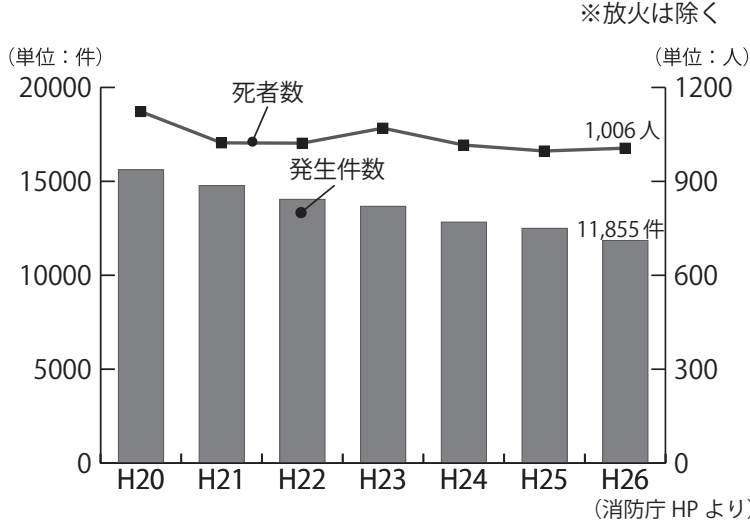
件数は？原因は？ 住宅火災の現状

毎年、全国で10,000件以上発生している住宅火災。これにより、命を落とす人も多くいます。発生件数や原因など、住宅火災の現状を確認し、予防につなげていきましょう。

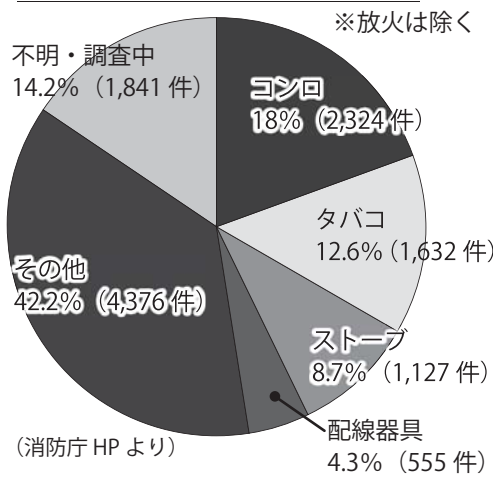
身近なものが 火災の原因に

住宅火災の原因として多いのはコンロ、タバコ、ストーブなど、日常的に目にする身近なものです。これらが、少しの油断で火災につながることに注意しましょう。

全国の住宅火災発生件数と死者数の推移（平成20～26年）



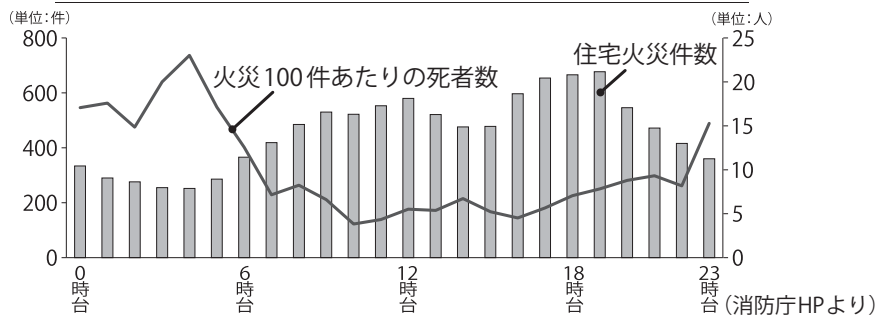
全国の住宅火災の出火原因（平成26年）



市内でも身近な原因で

市内では平成26年に2件、平成27年に6件の住宅火災が発生。原因はコンロが2件、ライター、ポイラー、電気配線が各1件でした。市内でも、身近な道具が火災につながっています。（田方消防より）
（その他は放火2件、不明1件）

全国の時間帯別住宅火災件数と100件あたりの死者数（平成26年）



時間帯によって 危険も違う！

住宅火災は活動時間帯に多く発生しています。しかし、死者が出る割合は4時台がもっとも多くなっており、就寝時間帯のほうが命を落とす危険が高いといえます。

住宅防火に 7つのポイント

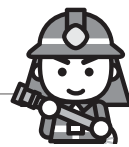
総務省消防庁では、住宅火災への対策として、「住宅防火のいのちを守る 7つのポイント」で防火を呼びかけています。ここでは、3つの習慣と4つの対策からなる7つのポイントを紹介します。

習慣1
寝タバコは、
絶対やめる

習慣2
ストーブは、
燃えやすいものから
離れた位置で使用する

習慣3
ガスコンロなどの
そばを離れるときは、
必ず火を消す

4つの対策は、
次のページで紹介します



もしも「のどきにいのちを守る」 4つの対策

もし火災が起きてしまっても、きちんと対策しておくことで被害を軽減することができます。今からでも家庭でできる4つの対策、皆さんもできているか確認してみてくださいいかがでしょうか。

対策1

逃げ遅れを防ぐために、 住宅用火災警報器を設置する

住宅火災で命を落とす原因として一番多いのが「逃げ遅れ」です。これを防ぐため、就寝時や他の部屋にいるときでも、より早く火災に気づくことができるように、住宅用火災警報器の設置が消防法で義務付けられています。



▲設置後は定期的に作動確認を

田方消防本部では、住宅用火災警報器の設置が困難な人のところへ設置に伺っています。「買ったけど取り付け方がわからない」という人は、問い合わせください。(販売はしていません)

- ☎ 田方中消防署 予防係
☎ 0558-76-0119
- ☎ 田方北消防署 予防係
☎ 055-978-0119

対策2

寝具、衣類およびカーテンからの火災を防ぐために、 防災品を使用する

寝タバコが寝具に着火したり、調理中に衣類に着火したりして、命を落とすケースがあります。火がつきにくく、燃え広がりにくい防災品を用いることで、被害を抑えることができます。



◀防災品に付いているラベル

対策3

火災を小さいうちに消すために、 住宅用消火器等を設置する

炎が天井に届くまでの火災は、消火器などによる初期消火が有効です。

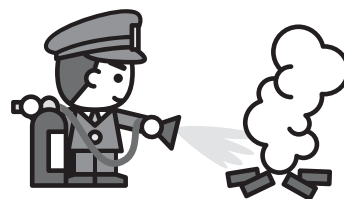


◀ホースのないものやスプレー式など、軽量で扱いやすいもの。ただし、有効期限には注意

対策4

お年寄りや身体の不自由な人を守るために、 隣近所の協力体制をつくる

高齢者や身体の不自由な人は、避難に時間がかかって逃げ遅れてしまうかもしれません。近くに住む人たちが協力し、そのような人たちを把握しておくことで、より早く対応することができます。



火災予防を呼びかける

火災予防運動の活動

火災のときにいち早く駆けつける田方消防本部や消防団。その活動は消火活動以外にもさまざま、防火を呼びかける活動もしています。ここでは、火災予防運動の時期に行われている活動を紹介いたします。

田方消防本部の活動

- ▼**防火ポスターコンクール**
小学5年生を対象に防火ポスターを募集し、優れた作品を掲示しています。
平成27年度は、秋に伊豆の国市と函南町、春に伊豆市を対象として実施しました。(伊豆の国市で最優秀賞となった作品が上の2点)



秋のコンクールではアピタ大仁店に作品を掲示



- ▼**事業所における広報ポスターの掲示**
管内の事業所に広報用防火ポスターなどを配布し、掲示を依頼しています。

伊豆の国市消防団の活動

- ▼**同報無線を活用した火災予防宣伝**
- ▼**サイレン吹鳴**
期間中は20時にサイレンを一齐に鳴らします。
- ▼**分団詰所などへの懸垂幕、横断幕の掲出**
- ▼**消防水利および消防機械器具の点検**
- ▼**各分団による夜間パトロール**



各分団が、火の用心を呼びかけながら管内を回っています。

消防団に新ポンプ車が 配備されました!

消防団の消防ポンプ車更新に伴い、1月24日(日)、新しい消防ポンプ車が第7分団(原木、四日町、寺家、中條)に配備されました。第7分団の旧車両は東南アジアに活躍の場を移します。



配備された新車両(左)

火災予防に必要なのは 意識と対策

火災による被害を減らすために何よりも大切なことは、一人ひとりが普段の生活の中で、防火に対する意識を高め、火災予防の対策を行うこと。「自分のところに火災なんて起きるはずがない」と無防備になってはいけません。ちょっとした習慣づけをしたり、家庭にあるものを確認したり、それも立派な防火対策です。サイレンやアナウンスを耳にしたとき、ポスターや横断幕が目に入ったとき、火災予防について考えてみませんか。